

(様式第1号)

第5回 会下山遺跡・城山遺跡調査委員会 会議録

日時	平成22年8月10日(火) 14時~16時
場所	芦屋市三条分室会議室/会下山遺跡
出席者	委員長 石野 博信 副委員長 福永 伸哉 委員 菱田 哲郎 委員 松下 まり子 (オブザーバー) 兵庫県教育委員会事務局文化財室課 審査指導係主査 鐵 英記 (市) 教育長 藤原 周三 社会教育部長 橋本 達広 (事務局) 生涯学習課課長 細井 良幸 同 主査 森岡 秀人 同 主査 竹内 典子 同 学芸員 竹村 忠洋
事務局	生涯学習課
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

会議次第

- 1 第4回調査委員会以降、現在までの取り組み状況(報告)
- 2 国史跡指定に向けた意見具申について
- 3 今後の取り組みについて
 - (1) 11月答申まで
 - (2) 城山遺跡について
 - (3) 整備活用について

提出資料

資料 意見具申関係書類一式

審議経過

開会

- 1 第4回調査委員会以降、現在までの取り組み状況

(委員長)

それでは、議題1と議題2は関連していますので、一括して事務局から説明をお願いします。

<事務局 細井よりレジュメに基づき概要説明>

- 2 国史跡指定に向けた意見具申について

<事務局 竹村より提出資料に基づき概要説明>

(委員長)

焼土坑から採取された砂鉄は、会下山のどこからでも採れるのか。採取できる範囲が限定されるものなのか。

(事務局 竹村)

焼土坑から離れたトレンチの土からも採取されており、焼土坑に限らず、会下山の広い範囲で取れると考えられます。ただし、焼土坑の埋土は、他の土より比較的多いようでした。

(委員長)

焼土坑で多いとは、どういうことか。弥生時代に鉄製品を作っていた可能性はあるのか。

(事務局 森岡)

自然のものです。鍛造薄片、粒状滓ともに、まったく確認されていません。

愛媛大学の村上教授の検視によって、ゲーサイトの溶脱と考えられる所見を得ています。

(菱田委員)

土の量と砂鉄量の関係を捉えておけば、今後、データとして役に立つことがあると考えられます。

(委員長)

豊岡市の入狭山(いるさやま)では、4世紀のもので砂鉄を埋葬者とともに埋納している。

ただし、愛媛大学の村上恭通教授は否定的である。

(松下委員)

焼土坑埋土の微化石を分析した結果、花粉が出てきたことにも驚いたが、それに伴い鉱物質粒が多く含まれていた。これが鉄かもしれない。炭化物粒も含まれていた。

(委員長)

鉱物質粒の大きさは、どれぐらいか。

(事務局 竹村)

3mmぐらいです。

(委員長)

熱残留磁気による年代測定には、100年前後の誤差がある。弥生時代で熱残留磁気による年代測定の事例は、あまり多くない。

(菱田委員)

熱残留磁気については、9世紀の窯跡で年代測定をしている。

(委員長)

焼土坑に伴う土器は 様式であるが、熱残留磁気的年代測定の結果は、その年代を示しているか。

(副委員長)

古磁気的年代基準の表が、どういうデータ(考古編年)を基準として作られたのかが大事。

1980年代ごろの資料を用いている。具体的資料については、この表を作られた広岡先生に直接確認しないとわからない。

(事務局 森岡)

暦年代は大幅に変化しています。

(松下委員)

花粉化石の分析では、マツの花粉が80パーセントであり、二次林になっていたことがわかる。イネやソバが見つまっている。

(委員長)

瀬戸内、近江、播磨などの他地域からの土器の搬入率はわかるか？

(事務局 森岡)

正確な搬入率は、検討できていません。近江の影響を受けた土器が認められますが、東方の土器は少ない。西方の土器が多い。播磨、讃岐の影響は強い状況です。

(委員長)

奈良県桜井市の纏向遺跡では、土器のわかる同じ人間が最低2人従事して、搬入土器の検討を行ったが、最終的に60%しかできなかった。

難しいだろうが、比率が分からなければ歴史にならない。将来的には、会下山遺跡で是非、個別の土器の搬入率を検証してほしい。

会下山遺跡に複数のグループがあったという見解は、どういうことか。

(事務局 森岡)

堀割り状の遺跡やS地区から見ると、大きな居住域を持つグループが考えられるということで、尾根に居るグループとは違うという考えです。

(委員長)

東斜面の山裾に設定した第10次調査第8トレンチ付近は、40m×30mの範囲をもつ緩傾斜地で、安定した遺物包含層が認められている。おそらくしっかりした遺構群があったとみてよい。S地区付近の隆起について、中世山城の郭と考える研究者や、昭和30年代の発掘調査の残土と考える研究者もいる。四日市市の金塚遺跡や、高槻市の古曽部・芝谷遺跡の高所の墓地から考えると、墳墓の可能性もある。検証したい場所である。

大阪府東山遺跡でも、幾つかのグループが確認されている。

(事務局 森岡)

東山遺跡の場合は、指のように分かれる尾根ごとに小集団の占拠がみられます。

(松下委員)

会下山遺跡では、同時期に複数のグループがあったのか。

(事務局 森岡)

土器の時期は、様式的にすべてつながっています。

廃絶住居に土器を捨てる傾向もあり、本来の遺構の年代は、なかなか難しい面があります。

(副委員長)

会下山遺跡を大規模遺跡として評価すると、弥生時代の他の大規模集落との違いが不明瞭になるのではないか。

もし、遺跡の規模が大きくなるのなら、高地性集落の中の高地性集落として評価すべきである。市民向けにパンフレットを作成する際などにも、意識しておくべきである。

大阪湾の入り口に、-0の高地性集落が登場する。高槻市の古曽部・芝谷遺跡や、和泉市の観音寺山遺跡の先駆的な集落となるのではないか。

(菱田委員)

今回の3ヶ年の確認調査とは別に、既往の調査すべてを再検証した会下山遺跡全体の再評価が必要である。その成果をまとめ公表する必要がある。

(委員長)

指定されれば、一般向けの冊子を作成する必要がある。

弥生時代後期の細分ができれば、おもしろい。

整備に伴うものとして、土器の細分や搬入土器の分析など、今後、継続してやってもらうと良い。

3. 今後の取り組みについて

(委員長)

それでは、議題3について、事務局から説明をお願いします。

(1) 11月答申までについて

(事務局 細井)

当面の取り組みについては、レジュメに記載しました日程と別添資料のとおりです。

補足としましては、公民館での関連講座開催中は、トライやるウィークの中で山手中学生が作成した説明パネルの展示を考えていますことと、国史跡指定が決まった際には周知・啓発事業を行うよう市長部局と調整中ということです。

(2) 城山遺跡について

(事務局 細井)

本委員会設立の当初は、城山遺跡も合わせて国史跡指定をする可能性も模索されており、

会下山遺跡・城山遺跡調査委員会となっていました。

調査と協議が進展した結果、会下山全山を対象として国史跡指定を目指すことになり、城山遺跡は手付かずになっています。

予算とマンパワーのことがあって、すぐに引き続いて調査継続、追加指定を検討するという状況にはありませんが、高地性集落群という特徴は活かせるように考えておきたい思いはあります。

本委員会は、国文化審議会の答申がある11月以降に第6回調査委員会を開きたいと考えておりまして、その回で城山遺跡の今後についても、助言を頂きたいと考えています。

(委員長)

第6回調査委員会で終了ですか。

(事務局 細井)

会下山遺跡にかかる調査委員会としては、一旦終了したいと考えています。

史跡整備については、現状維持を基本に考えておりますが、遺構を横切っている登山道や樹木の管理については、何らかの対応が必要ですので、活用方針も含めて、今後、改めて整備委員会を設置する方向です。

整備委員会には、学校教育や六甲砂防事務所などからも委員が入ると考えられます。さらにこのメンバーからも入って頂くのが良いのか、別にご助言を受ける方が良いのかなども、次回の教示頂きたいと思えます。

(委員長)

城山遺跡の方は、国有林で民間開発の心配はないとのことだったと記憶しているが、林野庁との関係は、どうなるのか。

(鐵主査)

国有林を国史跡にする場合、今回の会下山遺跡の場合と違い、土地の買い上げが前提となります。国史跡としての維持と営林との折り合いがつきにくいからです。

(菱田委員)

兵庫県多哥町の東山古墳群では、林組合から譲渡された。

(鐵主査)

確認調査を実施しようとする場合に国庫補助の適用はありますが、まずはお金を使わない方法として、市職員で分布調査を地道に実施していく方法がある。分布調査で緩傾斜地を把握していったらどうか。

(委員長)

城山に平坦部分はあるのか。

(事務局 森岡)

城山遺跡では、2つの調査地点で、合計4棟の竪穴住居跡が確認されています。

土器の時期は、後期前半が中心。中期：後期は、3：7の割合です。会下山遺跡ともよく似ています。時期は、会下山遺跡と併行しています。

(委員長)

整備に話を戻すが、会下山遺跡で何かをするとすると、六甲砂防には何か届出が必要か。例えば、復元住居を作ることはどうか。

(事務局 竹村)

復元に限らず、掘削深度が1mを超える場合は、全て砂防上の届出が必要になります。

また、砂防地における建造物の建設については、規模の大小に関わらず、原則として出来ない可能性が高いです。

(委員長)

Q地区の石組が一部検出されている付近に、現在、アンカーが打設されている。他に例がないので、石組の再現ができれば良いが。

ところで、会下山の登山道は、六甲山までつながっているのか。

(松下委員)

つながっています。樹木が倒れているところや、遺構のそばに生えている大木も、遺構を

損壊する恐れがあり気になるところです。

(委員長)

遺構の損壊に対しては特に留意する必要があるし、また、史跡整備には、活用面のプロの助言も必要になりますね。

つながっている登山道を登っていくと、どこに行き着くのですか。

(事務局 森岡)

横池や金鳥山につながっています。東おたふく山から六甲最高峰へと連なるハイキングコースになっています。

先ほど話しになっていた城山遺跡の国史跡を目指した場合、会下山遺跡の追加指定になるのか。別遺跡の新規指定になるのでしょうか。

(鐵主査)

今の時点では、調査内容次第としか言いようがありません。但し、新規も追加も、手続き上の作業量は変わりません。

遺跡の内容の把握が、まず大事で、出来るところからやっていくのが良いと思う。

先ほども話しましたが、分布調査から始めるのが最善だと思います。

(菱田委員)

現在、史跡指定は、単体から複数の群にして指定していく方向になっていっている。

会下山遺跡と城山遺跡の二つの弥生遺跡の関係が想定される必要もある。

城山遺跡の内容が確認されれば、遺跡群としての追加指定も想定しておくべきである。

(委員長)

六甲山系高地性遺跡群は広くなりすぎるが、会下山遺跡・城山遺跡なら将来的な可能性が見出せる。

(副委員長)

いよいよ終盤になってきましたので、私の意見をまとめておきますが、会下山遺跡については、PR、普及活動を今後も継続していくことが重要だと思う。

来年度からも積極的に情報発信し、熱が冷めてしまわないよう努めなければならない。

ホームページに会下山遺跡の特集のようなものが必要である。

調査・保存・活用の取り組みの歴史を市民に示すべきである。そうすることによって、市民が継続性を理解できる。

城山遺跡についても、今の勢いをもって、取り組みを継続すべきである。

詳細な測量図を作成して、分布調査を行なうべきである。

一方、城山遺跡の取り組みのために会下山遺跡の取り組みがストップしてしまうと困る。

会下山遺跡と城山遺跡の取り組みについては、バランスを考えながら、平行して進めることが大事である。

(事務局 森岡)

現在やろうとしている公民館講座は、ねらいを少しずつ変え、来年もやると継続するものが出来ます。

また、今年は、石野先生と福永先生に講師を引き受けていただいていますので、菱田先生や松下先生には是非来年関わっていただきたいです。

(委員長)

そうですね。事業は、いったん止まると、終わってしまう。

年に1回だけでも継続して情報発信すべきである。そのためには、新しい情報が必要。

城山遺跡については、すぐに本格的な調査は無理でも、分布調査は検討すべき。

(菱田委員)

史跡整備費が少ないのなら、整備より先に活用を先行させる方法もある。

せっかく国の宝である国史跡を手にいれる訳だから、史跡会下山遺跡の活用について、全市民に向けた取り組みを考えていくべきである。行政として、そういったソフト、仕組みを作っていくべき。

具体的には、眺望をどのように確保するかについて、ぜひ進めてほしい。木を伐採したり、

間引いたりするか。会下山遺跡に登った人にみていただきたい。

(委員長)

大阪大学の都出比呂志先生が出されている高地性集落でノロシを上げた説に依拠して、会下山遺跡でノロシを上げてみたらどうか。どこの範囲まで、ノロシがみえるのか。

そのノロシが、尼崎市の田能遺跡など、同時期の低地の集落で見えるかどうかを検証する。実質的には、市民の皆さんが喜んで参加できる実験となる。

本当に火を焚かなくても、発炎筒という方法もある。

ノロシであった場合、天気が悪い日にはどうしていたのだろう。

(事務局 森岡)

ランドスケープについて、会下山遺跡からの可視領域をパソコンを使って示すことができるかどうかに興味があります。徳島や瀬戸内では、パソコンを使った実践例をみたことがあります。私は視認型ですが。

(副委員長)

大阪電通大の小沢和正先生による数値地図情報を用いたものを、今から10年ぐらい前に見たことがある。

(委員長)

中国のノロシ台は、2 km 単位で設置されている。

江戸時代には、米相場の情報伝達を行なう旗振山があった。

(事務局 森岡)

城山もそうでした。

(松下委員)

眺望は、知らせると見つけるの両方の機能に着目する必要があります。また、植生について、里山はマツ、奥山が原生林となっていたと考えられる。

里の村の周辺にも、木がないといけません。

(委員長)

以上で意見も出揃ったようですので、第5回調査委員会の協議は終了します。

その他、事務局から何かありますか。

(事務局 細井)

本日頂いたご意見について、事務局で精査し事業を進めていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願い致します。

次回の日程につきましては、後日改めてご連絡させていただきます。

閉会